

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 18 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520484

研究課題名（和文）話しことば資料に基づく日本語の他動構文の研究

研究課題名（英文）Study of the Japanese Transitive Construction based on the discourse data

## 研究代表者

福島(天野) みどり (FUKUSHIMA (AMANO) MIDORI)

和光大学・表現学部総合文化学科・教授

研究者番号：10201899

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、話しことば資料を中心に、小説・新聞・広告などの書きことば資料も加え、広く他動文の用例を収集し、逸脱的特徴を持つ①接続助詞的な「何ヲ」文②状況を表す「何ガ」文③とがめだてを表す「何ヲ」文④③と似た意味を表す逸脱的な「何ガ」文について考察した。その結果、それらの文の意味解釈には、同じ形式を持つ他動文のうちのあるタイプをベースとした類推が働き、ベース構文の意味を写像して創造的に変容解釈・補充解釈を行うことにより成り立つことを主張した。特にAガBヲVという形式を持つ他動文について、①～③の逸脱的特徴を持つ他動文がベースとする他動構文は、他動構文の中でも、使用頻度が十分であり、また、典型的他動性の意味を持つタイプの構文であることを主張し、実際の言語使用において構文が重要な役割を果たすことを示した。

## 研究成果の概要（英文）：

In this study, I collected many examples of the transitive sentences from many colloquial expression documents and some literary documents such as some novels, newspapers, and advertisements, and considered the syntax and semantics of four kinds of sentence type that have the following special characteristics. (1) the sentences using 'o' resembling connective particle, (2) the sentences using 'o' which expresses a meaning of situation, (3) the sentences using 'nani-o' which expresses a meaning to blame somebody, and (4) the sentences using 'nani-ga' that resembled (3) :the sentences using 'nani-o'.

As a result, it was revealed that the analogy acted for the interpretation of those sentences. The meanings of those sentences are changed and supplemented creatively, and interpreted as a result of the mapping from the meanings of the base construction. Particularly, it became clear that the base transitive constructions that (1) -(3) are based are used frequently, and have the typical transitive meaning.

Finally it was revealed that "a sentence construction" played an important role in real language use.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 21 年度	700,000	210,000	910,000
平成 22 年度	500,000	150,000	650,000
平成 23 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：他動構文、格助詞ヲ、対格、接続助詞的ヲ、語用論、構文、類推、文脈

## 1. 研究開始当初の背景

現代日本語の他動文および格助詞ヲの意味については、従来多くの研究がなされ、典型的な意味から周辺の意味まで多様な意味が連続していることが明らかにされてきた。しかし、そのうち逸脱的な特徴を持つ他動文とそのヲについては、ほとんど研究されてこなかった。本研究では、「AガBヲV」という形式を持つ文を他動文とし、この同じ形式を持つ文として、他動構文の持つ類型的意味が、逸脱的な特徴を持つ他動文にも写像され意味解釈されるものと考え、その説明を試みることにした。

こうした構文が鋳型となり具体的文解釈に貢献するという考えは、近年ゴールドバーグ(1995)に代表される構文文法で推進されているものである。しかし、構文文法が分析する言語現象は英語中心であるため、日本語の説明には適さない場合も考えられる。本研究は現代日本語を対象として、その構文類型の果たす役割を説明しようとするものである。

また、逸脱的な特徴を持つ文を言語研究の対象とすることは、まだ文法論では多いとは言えない。逸脱的な特徴を持つ文であっても、当該の文脈に置かれれば母語話者なら不自然と感ぜず、相応の意味解釈ができることを、生きた話しことば資料から示すような研究はほとんどなされてこなかったのが現状であると考えられる。本研究は生きた言語使用を基に、母語話者が使用する文法論的知識がどのようなものであるかを考察する重要性を論じる。

また、こうした逸脱的な特徴を持つ文が文脈に応じて意味理解されることは、従来文法論というよりも語用論の分野で研究されてきたことである。語用論の中でもとりわけ関連性理論の成果を援用し、文法論の分野から母語話者の文法的知識を考察する必要があると考える。

## 2. 研究の目的

本研究は、現代日本語の他動構文を対象に分析を進めることにより、構文の持つ類型的意味が、具体的文の意味解釈にどのような役割を果たすかを明らかにすることが目的である。

本研究では豊富な話しことば資料などに基づき、実際に用いられる他動文を精査し、いくつかの逸脱的な特徴を持つ文の意味解釈がいかになされるかを明らかにする。他動構

文の類型的意味がどのようなものであるかを論じ、その類型的意味が、具体的文の解釈に果たす役割がどのようなものであるかを明らかにするのが目的である。

## 3. 研究の方法

筆者がこれまでに作成してきた現代日本語の話しことば資料を整理し、本研究課題である多様なヲ助詞の用例の収集を行った。60種類のテレビのトーク番組の音声録音資料を統一的に文字化し、データベース化した。

また、新たに3種類の自然会話を録音し、同じ統一的な手法により文字化しデータベース化した。

上記の話しことば資料および、小説・広告・新聞などから広く他動文の用例と逸脱的な特徴を持つ他動文の用例を収集した。

収集した他動文について、母語話者の直観を用いて、許容度の高低、意味の分析を行い、中核的な用法だけでなく周辺と思われる用法までを詳細に考察した。主な考察対象は、①接続助詞的のヲの文、②状況を表すヲの文、③とがめだてを表す何ヲ文、④③と類似した意味を表す何ガ文である。①～③のヲ助詞の考察の結果をふまえて、現代日本語の他動構文が果たす機能、その位置づけを理論的に行った。

## 4. 研究成果

本研究では、主としてこれまで作成してきた話しことば資料に基づき、逸脱的な特徴を持つ種々の他動文に関する総括的な考察を行った。考察の結果は著書『日本語構文の意味と類推拡張』にまとめ公刊した。

具体的には、作成してきた話しことば資料を中心に、小説・新聞・広告などの書きことば資料も加えて、広く他動文の用例を収集した。とりわけ、逸脱的な特徴を持つ、以下の文を分析対象とした。

①「 接続助詞的のヲの文

②「 状況を表すヲの文

③「 とがめ立てを表す「何ヲ」文

④③と似た意味を表す逸脱的な「何ガ」文

①～③はいずれも以下のような逸脱的な特徴を持つ。

a. 当該のヲの後続に直接結びつく他動詞が存在しない

b. 二重ヲ句の生起が可能である

c. 当該のヲを意味的に「～のに」「～け

れども」のような接続助詞と換えてもほぼ同じ意味を表す／あるいは「何ヲ」全体で「どうして」「何で」のような副詞句と同様の意味を表す

このような特徴から、一見①～③のヲは格助詞できなく接続助詞である可能性を持つものと推定される。

また、④も以下のような逸脱的特徴を持ち、当該のガが格助詞としての機能を既に持たず、「何ガ」全体で副詞化している可能性を持つものである。

a' . 当該のガの後続に直接結びつく自動詞が存在しない

b' . 二重ガ句の生起が可能である

c' . 当該の何ガを意味的に「何で」「どうして」のような副詞句と換えてもほぼ同じ意味を表す

本研究では、①～④の実例の使用例を集め、文脈上それらがどのような意味であるかを分析し、当該のヲおよびガに格助詞性が見られないかどうかを検討した。

その結果、当該の文はそれぞれに共通の文の意味があり、①～③はAガBヲV文、④はAガV文のうちのある類型をベースとして、類推によってその意味を創造的に変容解釈・補充解釈することにより成り立つことを明らかにした。つまり、①～③は他動構文を構成する格助詞のヲであり、④は自動構文を構成する格助詞のガということである。

こうした創造的な意味解釈は、顕在化している述語句の形式が表す語彙の意味と重ねて、ベースとなる構文の意味を重層的に解釈したものと言える。このような意味解釈は実際の言語使用場面では多くなされ、豊かな表現を可能になるしくみであると考えられる。

以下、逸脱的特徴を持つ文類型がどのような他動文をベースとするかを記す。

①接続助詞的なヲの文 (例：やろうとするのを、手をふった)

・ベースとなる構文：〈方向性制御〉他動構文 (「AガBヲサエギル」など)  
・解釈される意味：抽象化された、自然な流れに対する意図的な〈対抗動作性〉

②状況を表すヲの文 (例：雨の中を頑張った)

・ベースとなる構文：〈移動対抗動作〉他動構文 (「AガBヲ突破スル」など)  
・解釈される意味：抽象化された、逆境に対する意図的な〈移動・対抗動作性〉

③逸脱的な〈何ヲ〉文 (例：何を文句を言ってるの)

・ベースとなる構文：〈スル〉型他動構文 (「A

ガBヲスル」)

・解釈される意味：主体にその事態の成立の責任が帰せられるような、抽象化された意図的他動行為

・ベースとなる疑問詞疑問文：〈何ヲ〉型疑問疑問文 (「何ヲスル?」)

④逸脱的な〈何ガ〉文 (例：何が彼女がお姫様ですか)

・ベースとなる構文：名詞述語文 (「AガBダ」)

・解釈される意味：名詞 (B) 相当の意味  
・ベースとなる疑問詞疑問文：〈何ガ〉型名詞述語文 (「何ガBダ?」)

特に接続助詞的なヲの文については、ベースとなる構文が実際にどのくらい使用されているかを数量調査し、頻度の高い類型であることを確認した。また、意味的に、さまざまな他動性的意味の中でも典型的な影響動作性、すなわち意図性と状態変化性の両方の意味を持っていることを論じた。

何らかの点で逸脱的な特徴を持つ文は、類似した形式のさまざまな類型文のうち、使用頻度が十分であり、典型的な意味特徴も持つ類型をベースとすることを示したことになる。この点については、今後も他の構文について検討していかなければならない。

以上のように、これまで文法論の分野であまり研究されてこなかった逸脱的な特徴を持つ文を、文脈・状況の中では相応の意味を表す日本語の文であると位置づけ、語用論の成果を援用しつつ、文法論の立場からの説明を試みた。

また、本研究は現代日本語の他動構文を中心的な考察対象としたが、特に接続助詞的なヲは、中古期に一度成立したものとされていることから、現代語と同様の分析が中古語に関しても適用できるか試みた。実際に『紫式部日記』『徒然草』を対象に接続助詞としての解釈がなされる可能性のあるヲの文を収集し、そこに現代語の接続助詞的なヲの文と同様の語用論的変容解釈・補充解釈が可能かどうか検討した。その結果、これまで接続助詞のヲと解釈されてきたほとんどの例において、意図性・状態変化性を解釈することが可能であり、現代語の接続助詞的なヲの文と同様の段階である可能性があることを示した。

今後、こうした日本語の歴史的変化の諸相も視野に入れた他動構文の全体像を研究する方向に研究を進めていきたい。

また、本研究はヲが中心であったが、今後他の格助詞、特にガについて、同様に接続助詞への変化の様相を検討していきたい。本研究ではその一端としてとがめだてを表す何ヲ文と似た何ガ文を分析し、このガも格助詞

のガとして解釈されているのであって、接続助詞とは認定できないことを示した。他に、例えば本研究における接続助詞的なヲに関する考察の結論、すなわちこのノヲのヲは逆接の接続助詞ではなく、「～ヲやめる」などの他動構文に見られるヲと同様に格助詞としての機能を果たすという結論は、今後類似したノガの分析にも適用できる見通しがあり、格助詞ガの詳細な研究、さらには、日本語の補文標識辞と言われるノの研究にも有益な提案を行えるものと考えている。

また、本研究は、構文類型が実際に言語活動において果たす役割の重要性を、主として他動構文を中心に明らかにしたことになるが、さらに多様な、異なる構文においてもその重要性を明らかにしていかなければならない。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ①天野みどり(2010)「主要部内在型関係節と接続助詞的な‘ヲ’」『和光大学表現学部紀要』10号, pp. 5-19 (査読無)
- ②天野みどり(2010)「古代語の接続助詞的なヲの文」『新潟大学国語国文学会誌』52, pp. 1-13 (査読無)
- ③天野みどり(2010)「現代語の接続助詞的なヲの文について－推論による拡張他動性の解釈－」『日本語文法』10:27, pp. 6-92 (査読有)
- ④天野みどり(2011)「他動構文の意味－拡張した「ーガーヲ文」の意味解釈を通して－」『KLS Proceedings』30, pp. 291-302 (査読有)
- ⑤天野みどり(2011)「拡張名詞述語疑問詞疑問文－「何が彼女がお姫様ですか」」『和光大学表現学部紀要』11号, pp. 11-22 (査読無)
- ⑥天野みどり(2012)「所有者受動文に関する一考察－「足をつかまれる」と「足を痩せる」」『和光大学表現学部紀要』12号, pp. 11-20 (査読無)

[学会発表] (計 3 件)

- ①天野みどり(2009)「他動構文の意味－拡張した「ーガーヲ文」の意味解釈を通して－」関西言語学会第34回大会シンポジウム, 於神戸松蔭女子学院大学 2009年6月7日 (招待発表)
- ②天野みどり(2009)「現代語の接続助詞的なヲの文について－古代語との連続性－」日本語文法学会第10回大会, 於学習院女子大学 2009年10月25日 (招待発表)
- ③天野みどり(2010)「拡張名詞述語疑問詞疑

問文－「何が彼女がお姫様ですか」 関東日本語談話会, 於学習院女子大学 2010年12月4日

[図書] (計 1 件)

- ①天野みどり(2011)『日本語構文の意味と類推拡張』笠間書院、総 232 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

天野 みどり (AMANO MIDORI)  
和光大学・表現学部総合文化学科・教授  
研究者番号：10201899

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：